

幼 児 キ ャ ャ ン プ

子どもと親の学び

1. 子どもと親で、一緒に自然体験ができる



子どもと一緒に遊べることは、大きな意義があります。
 子どものメリットは、親と一緒に遊ぶことで、**安心して思いっきり遊ぶ**ことができます。子どもは見守られている安心感をもとに、**積極的に遊びを展開**していきます。
 親のメリットは、子どもの多様な**感受性に気づき、挑戦し木登り**ができるなどの力を改めて感じる事ができることです。「日常の姿」とは違う姿から多くのことを学びます。

2. 子どもが夢中に遊ぶ。



子どもは、豊かな自然環境の中で様々なことに興味を持ち、確かめたり、身体を使って自然と**直接かか**ることで**喜びや満足感**を得ます。そして**もっとかか**りたい、**知りたい**などの**意欲、関心**が高まり、さらなる探索活動が展開されます。この中で仲間や保育士との関係性も必然的に深まります。このように豊かな自然環境の中では**「興味→直接体験→知る(喜び)→意欲や関心が高まる」**の流れが繰り返され、子どもたちが飽きることなく夢中に遊ぶことができます。

3. 自主性や社会性がはぐくまれる。



キャンプでは自分で動かなければ楽しくありません。子どもは、仲間との遊びを**楽しむために自ら動いて**いきます。より楽しい活動になるよう、子どもたちへの援助では「何か楽しそうだな、ワクワクする」という**環境設定も大切**です。また、キャンプ中は集団で行動しています。食事や就寝など自分一人のわがままは通用しません。仲間と協力して布団を準備し、親と離れて寝ることなど**日常では得にくい体験**をします。その中で**仲間の姿をまねたり、仲間から認められる**などを通して**協調性や社会性**を身につけていきます。

4. 保護者プログラム



保護者プログラムとして3つの柱を準備しました。一つは子どもの活動時に、観察を行うことです。子どもと離れ、客観的に子どもの行為を記述していきます。この記述によって**子どもの姿を再認識**することにつながります。二つめは、夜の時間に、職員による、幼児期における自然体験活動の意義のレクチャーを行ったことです。活動写真や今までの様子、子どもの変容を伝えることで、**自然体験活動の理解を深める**ことができました。三つめは、読み聞かせ。普段、親は読み聞かせをする側ですが、**聞く側を経験**することで、声のトーンや情緒豊かに語りかけることなど様々なことを学びました。
 若い親世代への**子育て支援の視点**からも、親を対象とした活動は有効でした。



妙高市職員(保育士)がキャンプを運営する。～新しい公共の視点で～

国立妙高青少年自然の家は、地域密着型の施設として関係機関と連携し、協働での運営を目指しております。
 具体的には、幼児キャンプで妙高市教育委員会の協力を得て、新任保育士3名が幼児キャンプに参画しました。企画から運営、事業の評価まで一連の流れを自然の家の職員と共に実施しました。協働運営のメリットがいくつか明らかになりました。保育士が運営者であることは、参加者の子どもたちや保護者に安心感を与え、専門的な援助が保証されます。
 さらに、保育士の学びとして、自然体験活動の理解が深まり、援助や運営の在り方にゆとりが出てきました。自然の家の職員も、保育士の子どものかわりから、援助の在り方や幼児理解について力を付けることができました。

先生方からのコメント

「協働運営のメリット」
 妙高市教育委員会 園指導主事 宮田 友子
 「幼児期にふさわしいプログラム開発」に市内の幼・保育園が参加・協力して早3年目を迎えます。今年度は締めくくりの年でもあり、新たな試みとして「自然体験活動キャンプ」に、当市の新採用職員3名が参加し、自然の家の職員と一緒にスタッフとして事業運営を行いました。
 キャンプ当日、初めて出会う子どもたち。少々の不安をかかえながらも無我夢中で子どもたちに向かい合う保育士達だが、場面・場面で誰が指揮を執るのかわからず、動きがとまる。指示を待つ姿が頻繁であった。しかし、回を重ねることに3名の保育士同士がお互いの役割を確認しながら、しっかりと動けるようになってきた。このように周りを見ながら自発的に動く姿は、幼児キャンプのみならず日常保育にも反映され、「幼児が夢中になって遊ぶ」環境づくりに良い影響を与えています。それがひいては組織の活性化にも繋がり、当市としては嬉しい限りです。

妙高市立斐太南保育園 丸山 奈帆子 先生
 毎回のキャンプではいろいろな子どもたちとの出会いがありました。楽しみでもありましたが、知らない子どもたちとかかわるといことは、私にとって難しいことでした。しかし、キャンプ運営の経験を重ねていくことで自分に自信がつき、積極的に子どもたちとかかわれるようになってきたと実感しました。残りの冬キャンプでも参加する子どもたちとたくさんコミュニケーションをとり、楽しいと思ってもらえるようなキャンプになるよう運営スタッフとして頑張りたいと思います。

妙高市立第一保育園 阿部 由梨子 先生
 初めて幼児のキャンプの運営に携わりました。当日は子ども達と暗くなってから楽しめる自然活動、寝泊まりする体験、慣れない場での寝具の準備など普段なかなか体験することのない体験ができました。初めて会った幼児、保護者にどれだけ満足のいく対応ができるのか不安も感じたが、回を重ねることに少しずつスムーズに行えるようになりました。また、活動の前に簡単なゲームを取り入れることで運営者、参加者同士がより親しみやすくなりました。今後日常の保育にできることは取り入れ、しっかりと自分の力として身に付けていきたいと思ひます。

妙高市立妙高保育園 東條 沙也加 先生
 初めて運営側の立場で事業を展開させる経験をしました。打ち合わせや反省では自分の意見や考えを発言できるように心がけ、運営面では積極的に声を出して参加者やスタッフとコミュニケーションを図ってきました。キャンプ運営をしたことで自ら進んでやってみようとする力や姿勢を身につけ、以前よりも行動できるようになったと感じます。子どもの行動や言葉から子どもを見取る目を養い、それに応じた臨機応変な対応は保育士として必要なことであり今後さらに身につけていきたいと思ひます。本当に貴重な体験をさせてもらうことができ、ありがとうございました。

運営のポイント

新しい公共型の組織図

自然の家 ↔ 妙高市教育委員会

- ・ 企画、運営、評価
- ・ 自然体験活動の質を高める
- ・ 職員の質を高める

幼児キャンプの概要

1年間を通して4回実施しました。

- 春:** 平成24年6月15日(金)～6月16日(土) 1泊2日 本館宿泊 16名
 主な活動 ナイトハイキング、森で遊ぼう
- 夏:** 平成24年8月3日(金)～8月4日(土) 1泊2日 キャンプ場宿泊 20名
 主な活動 キャンプファイヤー、源流探検
- 秋:** 平成24年9月21日(金)～9月22日(土) 1泊2日 本館宿泊 36名
 主な活動 ナイトハイキング、森で遊ぼう、焼きいも大会
- 冬:** 平成25年2月1日(金)～2月2日(土) 1泊2日 本館宿泊 46名
 主な活動 ゲーム、絵本、深雪探検

担当より

子どもたちはキャンプを通して、成長していく“きっかけ”を自分で見つけていくと思ひます。キャンプに参加して、ガラッと変わるわけではありません。
 しかし、子どもなりに小さな冒険を繰り返す挑戦し、失敗したり成功したりするなど直接身をもって体験することが揺るがない自信につながると思ひます。今後もキャンプを通して豊かな感性や、多様な体験を積み重ねてほしいと思ひます。